

研究ノート

大型複製シートを活用した利用促進の取組み

井上 由紀恵*

1. 複製シートとは
2. 複製シートの活用事例
 - (1) 学校の教材として
 - (2) 地域回想法の素材として
 - (3) 祭りや国際交流の場で
3. 複製シートの貸出し手続き
4. 広報
 - (1) チラシ
 - (2) 月替展示
 - (3) ホームページ

1. 複製シートとは

福井県文書館では、地域に残された資料を多くの方に、より身近に感じてもらい、手軽に利用してもらうため、近年、普及業務の一環として、大型の複製シートを作成し、貸出しや出前講座による利用促進に取り組んできた。ここまでの取組みを総括し、紹介するとともに、今後の課題を考えていきたい。

複製シートとは、A1サイズやB0サイズなどの大判の特殊合成紙に、すごろくや絵図・地図などの大型資料を印刷したものである。複製シート作成のきっかけとなったのは、2009年度（平成21）に行われた企画展示「すごろく展」であった¹⁾。坂井市の旧家から多数寄託された明治・大正期を中心としたすごろくを紹介する展示であったが、これらのすごろくは大型のものが多く、展示ケースの中に納まりきれないものがほとんどで、納まるものでも1つの展示ケース内に1、2点しか展示できなかったため、カラー複製を作ってパネル展示することになった。さらに期間中、来館者にすごろくで遊んでもらう体験イベントも企画され、使用に耐えうる丈夫な複製が必要だということで、特殊合成紙を使って、A1サイズを中心に約20種類のすごろくを複製化した（写真1）²⁾。

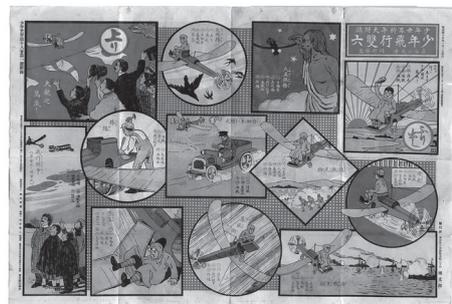


写真1 「少年飛行双六」シートNo.SH00010
坪田仁兵衛家文書（当館寄託）

*福井県文書館主任

企画展示終了後も、館内のイベントで使用したほか³⁾、近隣の小学校から出前授業の依頼があったことから、複製シートの利用の可能性を感じ、2010年度（平成22）以降、引き続き作製を進めることにした。その際、すごろく以外の資料の活用も模索され、当館のレファレンスの中で比較的需要の多い、明治から昭和戦前期の福井県内の地図や絵図を中心に約20点を複製シート化した。以後も、月替展示等で複製シート化して展示した方が便利な場合などを含めて随時作製を進め⁴⁾、15年1月末現在で約90点の資料が複製シート化⁵⁾されている（表1）。

表1 複製シート一覧（2015年1月末現在）

シート No	年 代	資料名	サイズ		備考
SH00001	1892年（明治25）	「前北斎富士勝景寿語録」	A1		すごろく
SH00002	1892年（明治25）	「女礼式十二ヶ月寿語録」	A1		すごろく
SH00003	年未詳	「春遊傾城道中寿吾六」	A1		すごろく
SH00004	1904年（明治37）	「新案海戦将棋」	A1		はさみ将棋
SH00005	1848年（嘉永1）	「弘化改正仏法双六」	A1		すごろく
SH00006	1906年（明治39）	「新案競馬遊戯」	A1	B0	すごろく（こども向け）
SH00007	1908年（明治41）	「開国五十年双六」	A1		すごろく（こども向け）
SH00008	1909年（明治42）	「日本十五少年双六」	A1		すごろく（こども向け）
SH00009	1910年（明治43）	「少年歴史地理双六」	A1		すごろく（こども向け）
SH00010	1912年（大正1）	「少年飛行双六」	A1	B0	すごろく（こども向け）
SH00011	1913年（大正2）	「日本名婦双六」	A1		すごろく（こども向け）
SH00012	1913年（大正2）	「飛行自動車双六」	A1		すごろく（こども向け）
SH00013	1926年（昭和1）	「家庭教育世界一周すごろく」	A1	B0	すごろく（こども向け）
SH00014	20世紀前半	「東京名勝双六」	A1		すごろく
SH00015	20世紀前半	「東京繁栄双六」	A1		すごろく
SH00016	1906年（明治39）	「新遊戯「はめ画競争」」	A1		はめ絵（子ども向け）
SH00017	1925年（大正14）	「最新誌上野球競技」	A1		すごろく
SH00018	1913年（大正2）	「少女思ひ出すごろく」	A1	B0	すごろく（こども向け）
SH00019	1902年（明治35）	「実業家出世双六」	A1		すごろく
SH00020	1902年（明治35）	「政治家出世双六」	A1		すごろく
SH00021	1904年（明治37）	「福井県実業家案内すご録」	A1		すごろく（県内）、 タペストリーもあり
SH00022	1933年（昭和8）	「福井県地図（10万分1）」		B0	地図
SH00023	1952年（昭和27）	「福井県精図（10万分1）」		B0	地図
SH00024	1904年（明治37）	「日露戦争早見地図」	A1		地図
SH00025	年未詳	「北国白山天嶺御絵図」	A1		絵図
SH00026	年未詳	「越中国立山禪定并略御縁起名所附図」	A1		絵図

シート No	年代	資料名	サイズ		備考
SH00028	1904年（明治37）	「日露作戦地一覽図」	A1		地図
SH00029	年未詳	「増補高野山独案内」	A1		絵図
SH00030	年未詳	「ならめい志よ恵づ（奈良名所絵図）」	A1		絵図
SH00031	年未詳	「北国白山天嶺之図」	A1		絵図
SH00032	1897年（明治30）	「若越両国全図」	A1		地図
SH00033	1933年（昭和8）	「最新福井県地図」	A1		地図
SH00034	1896年（明治29）	「福井県全図」	A1		地図
SH00035	1868年（明治1）	「定（五榜の揭示、第一札）」	A1		高札・翻刻あり
SH00036	1868年（明治1）	「定（五榜の揭示、第二札）」	A1		
SH00037	1868年（明治1）	「定（五榜の揭示、第三札）」	A1		
SH00038	1924年（大正13）	「福井県全図」	A1		地図
SH00039	1853年（嘉永6）	「海陸御固泰平鑑」	A1		幕末の瓦版
SH00040	1882年（明治15）	「福井県管内地図」	A1		地図
SH00041	1940年（昭和15）	「大日本職業別明細図 第六三三号 福井県（武生町）」	A1		地図
SH00042	1940年（昭和15）	「大日本職業別明細図 第六四三号 福井県（鯖江町）」	A1		地図
SH00043	1940年（昭和15）	「大日本職業別明細図 第六二三号 福井県（福井市・芦原温泉）」	A1		地図
SH00044		「慶長御城下絵図」	A1	B0	絵図・タペストリーもあり
SH00045		「天保福井御城下絵図」	A1		絵図・タペストリーもあり
SH00046	1821年（文政4）	「（北之庄城郭図）」	A1	B0	絵図
SH00047	1887年（明治20）	「越前北ノ庄城ノ図」	A1	B0	絵図
SH00048	1929年（昭和4）	「日本交通分県地図 其三十七 福井県」	A1		地図
SH00049	1933年（昭和8）	「福井県鳥瞰図」	A1		鳥瞰図
SH00050	1933年（昭和8）	「福井市鳥瞰図」	A1		鳥瞰図
SH00051	1933年（昭和8）	「最新番地入福井市街地図」	A1		地図
SH00052	1934年（昭和9）	「県庁及松平邸附近平面図」		B0	地図
SH00053	1933年（昭和8）	「福井市街全図」	A1		地図
SH00054	1850年（嘉永3）	「地球万国山海輿地全図説」	A1		地図
SH00055	1878年（明治11）	「石川県管内図」	A1		地図
SH00056	1917年（大正6）	「福井県管内全図」	A1		地図
SH00057	1873年（明治6）	「明治六年新旧合曆」	A1		曆
SH00058	1872年（明治5）	「（太陽曆頒行ニ付足羽県布達）」	A1		曆関連
SH00059	1820年（文政3）	「寺送り状之事」	A1		寺送り状・翻刻あり

シート No	年 代	資料名	サイズ		備考
SH00060	1847年 (弘化4)	「村送り一札之事」	A1		村送り状・翻刻あり
SH00061	1903年 (明治36)	「第五回内国勸業博覧会見物案内図」	A1		裏面の会場内外案内図も複製パネルで貸出し可能
SH00062	1882年 (明治15)	「地券」	A2		地券 (現・永平寺町)
SH00063	1882年 (明治15)	「地券」	A2		地券 (現・池田町)
SH00064	1882年 (明治15)	「地券」	A2		地券 (現・大野市)
SH00065	1878年 (明治11)	「地券」	A2		地券 (現・若狭町)
SH00066	1878年 (明治11)	「地券」	A2		地券 (現・おおい町)
SH00067	1884年 (明治17)	「地券」	A2		地券 (現・おおい町)
SH00068	年未詳	「爆笑遊び」	A2		福笑い・複製パネル
SH00069	1856年 (安政3)	「伊勢参宮名所一覧」	A1		絵図
SH00070	1880年 (明治13)	「越前国七郡全図全」	A1		絵図
SH00071	1914年 (大正3)	「欧羅巴戦局地図」	A1		地図
SH00072	1926年 (昭和1)	「武生町市街図」	A1		地図
SH00073	1926年 (昭和1)	「近畿を中心とする名勝交通大鳥瞰図」	A1		鳥瞰図
SH00074	1868年 (明治1)	「公式便覧」	A1		明治維新時の三職一覧
SH00075	1882年 (明治15)	「地券」	A2		地券 (現・福井市)
SH00076	1882年 (明治15)	「地券」	A2		地券 (現・福井市)
SH00077	1882年 (明治15)	「地券」	A2		地券 (現・永平寺町)
SH00078	1882年 (明治15)	「地券」	A2		地券 (現・大野市)
SH00079	1878年 (明治11)	「地券」	A2		地券 (現・若狭町)
SH00080	1879年 (明治12)	「地券」	A2		地券 (現・若狭町)
SH00081	-	「杉田仙十郎略年譜」	2012年度企画展示タペストリー		
SH00082	-	「杉田定一略年譜」	2012年度企画展示タペストリー		
SH00083	-	「杉田すず略年譜」	2012年度企画展示タペストリー		
SH00084	-	「1年1枚-ふくい戦後60年-」	2011年度企画展示タペストリー		
SH00085	1847年 (弘化4)	「御座所御絵図」		B0	絵図
SH00086	1848年 (嘉永1)	「御本丸御絵図」		B0	絵図
SH00087	1887年 (明治20)	「改正東海道五十三駅道中双六」	A1		すごろく
SH00088	1908年 (明治41)	「冒険壮遊双六」	A1		すごろく
SH00089	1914年 (大正3)	「太閤出世双六」	A1		すごろく

※各資料の資料番号等、詳細は紙面の都合で省略した。詳しくは当館ホームページの複製シート一覧参照。

http://www.library-archives.pref.fukui.jp/?page_id=493

2. 複製シートの活用事例

(1) 学校の教材として

当館では学校との連携事業に力を入れており⁶⁾、複製シートも学校での利用が中心となってきた。すごろくが最も多く、小学校の生活科や総合学習の時間での昔遊び体験や、地域の高齢者との交流事業⁷⁾で使用されている(写真2)。

また、すごろく以外で授業に活用できるものを、という観点から2010年度(平成22)以降、教科書や副教材に掲載されている資料を中心に、五榜の掲示(高札)や地券などを複製シート化した。こちらも少しずつ利用が増えており、身近な歴史教材を手軽に扱えるとして好評である⁸⁾(表2)。



写真2 小学校でのすごろく出前授業

表2 複製シートの学校での利用一覧

年度	使用資料	詳細	備考
2014	地券	中学校社会科の授業で使用	貸出し
2013	すごろく	小学校4年生の授業で昔遊び体験に使用	貸出し
2013	すごろく、地図、暦など	小学校6年生の社会の授業で使用し、展示	貸出し
2013	地券	特別支援学校中等部社会科(歴史)の授業で使用	貸出し
2012	地図、五榜の掲示など	高校の歴史の授業で使用	貸出し
2011	すごろく	小学校1・2年生生活科の学習で昔遊び体験に使用	貸出し
2011	すごろく	小学校2年生が公民館で行われる福祉交流会で、高齢者との交流活動に使用	貸出し
2011	海陸御固泰平鑑	小学校6年生社会科の授業で使用	貸出し
2011	すごろく	小学校、6年生社会科、2年生生活科、高学年の特別活動(クラブ活動)で使用	貸出し
2010	すごろく	小学校2年生の学級活動で昔遊び体験に使用し、校内展示	出前講座
2010	すごろく	小学校3年生と6年生の総合的な学習の時間で昔遊び体験に使用	出前講座
2009	すごろく	小学校3年生の総合的な学習の時間で昔遊び体験に使用し、校内展示	出前講座

(2) 地域回想法の素材として

回想法とは、1963年(昭和38)、アメリカの精神科医ロバート・バトラーによって提唱されたもので、高齢者の過去の回想に対して、聞き手が共感的受容的支持的にかかわり、高齢者の人生の再評価やアイデンティティの強化、QOL(人生の満足度)の向上、対人関係の形成をはかろうとする援助方法とされている⁹⁾。これを身近な地域社会で、地域の社会資源を活用して行うのが「地域回想法」であり、地域資料が豊富な歴史民俗資料館や博物館などが利用されるようになっている¹⁰⁾。その先駆

けと言えるのが、愛知県の北名古屋市歴史民俗資料館「昭和日常博物館」で、2002年（平成14）より「博福連携」と名づけて、資料館の展示を利用した地域回想法に取り組んできた¹¹⁾。現在では全国各地の博物館や資料館、図書館などでも取組みが広がっている¹²⁾。

複製シートの中でも特にすごろくや県内の地図・絵図などは、地域回想法の材料としての活用が大いに期待できる。すごろくは遊びを体験したり、描かれた絵を眺めたりしながらの回想が可能であるし、地図は昔の地名や道路や線路など、描かれた情報からの回想が可能である。2009年度（平成21）以降、年2、3件ではあるが、近隣の福祉施設や病院での利用が続いている（写真3・4）。

なお、地図の地域回想法への活用にあたっては、古い写真と組み合わせることで、記憶がよび起こされ、より具体的な回想が可能になる。当館では、県が広報活動のために撮影してきた昭和30年代から50年代を中心とした写真（県広報写真）¹³⁾を所蔵しており、2007年度（平成19）から実施している月替展示「ちょっと昔の福井県」シリーズで、各地域のようすや自然災害・イベントなどで写されている県民のすがたや、くらしの変化を写した写真をパネル展示している¹⁴⁾。展示で使用した写真パネルの貸出しも行っており、地図と写真を併せた貸出しも多い。

当館の地域回想法への活用事例として、2014年度（平成26）に実施した、越前市武生西公民館の出前講座を紹介したい。

【武生西公民館出前講座「昔のすごろく遊び」】

日時：2014年10月25日 午前10時～11時30分

会場：越前市武生西公民館

主催：当館、越前市武生西公民館、越前市武生西地区自治振興会¹⁵⁾

内容：すごろく複製シートを用いた昔遊び体験及び、当該地区を写した昭和30年代の写真パネルや昭和初期の地図の展示

依頼に来られた自治振興会の担当者は、地域の歴史に造詣が深く、当館にも日常的に来館している方で、当初は「昔の資料を身近に感じてもらうために、すごろくを紹介してもらいたい」という依頼であった。せっくなので、すごろくの昔遊び体験をしてもらい、さらに、会場の空きスペースを利用して写真や地図の展示をさせてもらうことにした。当日の参加者は15名程度、ほとんどが高齢の女性で、他に



写真3 社会福祉施設での利用



写真4 社会福祉施設での利用



写真5 武生西公民館での昔遊び体験

40代の男性1名と、就学前の幼児連れの親子一組であった。自治振興会や公民館職員を含めて参加者ほぼ全員が知り合い同士ということで、和気あいあいとした雰囲気の中、すごろく遊びへの導入もスムーズで、全体的に和やかな雰囲気を楽しまれていた（写真5）。

そして、講座の中でとりわけ盛り上がったのは、オプションで持って行った写真と地図の展示であった（写真6）。

写真の中に写された場所が特定できないものがあったため、

地元の高齢の方に聞けるのは絶好の機会だと思い「これはどこですかねえ、どうしてもわからなくて。」と持ちかけてみたところ、私が予想していた以上に活発な議論が始まった。写真を眺めて古い記憶を呼び起こしながら意見を出し合い、横に展示されていた市内の地図と写真とを見比べ、そのうち公民館の事務室から虫眼鏡を取ってきて細かなところまでチェックし、最終的に場所を特定し、意気揚々と報告してくれた。もう一点、当館寄託資料の中に昭和初期の映画館のチラシがあり、場所が特定できなかったため、質問してみたところ、こちらも昔見た映画の話などを交えながら大いに盛り上がった。こちらの方は結論が出なかったものの、後日、自治振興会から、手がかりとなる資料を添付した丁寧な手紙が届き、感激した。それ以外にも、写真に写されている昔の街並みや、三八豪雪に関する思い出を、数人の女性が楽しそうに語り聞かせてくれた。

講座終了の挨拶をした際に見た、参加者の笑顔と生き生きとした表情が心に残った。「楽しかったわ」と笑顔で声をかけてくれた女性もいた。この講座の当初のねらいは、「昔の資料に触れる」ということであったのだが、期せずして、すごろく、地図、写真それぞれの地域回想法への活用の効果を実感する結果となった。もちろん、共催した公民館や自治振興会の協力があるからこそ成功であることは言うまでもない。今後も、他施設の取組みを参考にし、地域と協力しながら、利用を増やしていきたい分野である¹⁶⁾。

（3）祭りや国際交流の場で

その他、これまでの利用例から2例紹介したい。

1例目はまちづくりへの活用である。2013年（平成25）10月、福井市内の公民館から、福井城下絵図の複製シートの貸出し依頼があった。福井城下絵図に描かれている地区の公民館で、現在区史を編纂中ということで、地区の祭りでのPRを兼ねて地域の歴史に興味を持ってもらうことを目的とした展示であった（写真7）。絵図や地図、そして写真は、地域の歴史を知る機会にもつながるため、まちづくりや、地域のイベントなどでの活用の可能性は高い。



写真6 武生西公民館の地図・写真の展示

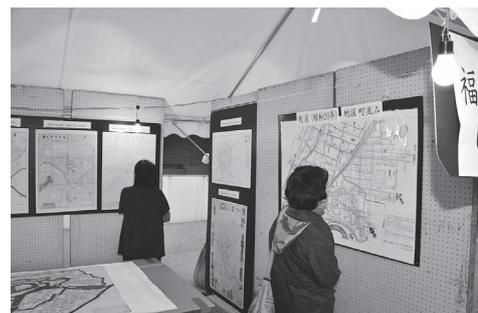


写真7 地区の祭りでの絵図の展示

2例目は国際交流への活用である。2014年（平成26）2月、国際交流団体関係者から「外国人向けの日本語教室ですごろくや福笑いを体験するイベントをしたい」という申し出があった。その方は併設する県立図書館を利用するために来館したが、たまたま改装工事中で閉館だったため、開館中の当館にふらりと立ち寄り、展示されていたすごろく複製シートを見て、利用を思いついたとのことであった。さらに、その団体から話を聞いたという別の団体からの申し出があり、外国人と日本人との交流イベントで利用された。

これは今まで学校での教材や回想法の材料としてしか複製シートの活用を考えてこなかった我々にとっては目から鱗が落ちる思いであった。今回紹介した事例以外にも活用方法はいろいろあるに違いない。新たな活用方法は利用者から開拓されることもあるはずで、そのためにも広報活動の充実の必要性を痛感した事例であった。

3. 複製シートの貸出し手続き

複製シートの貸出しに関しては当初、規定がなく、「福井県文書館における展示パネルの管理要領」に基づき展示パネルの貸出し方法を準用した¹⁷⁾。そのため原本資料の貸出しと同じ手続きが必要とされ、事前に代表者の印が押印された「文書等貸出し承認申請書」を提出してもらい、館長の承認を得た上で、承認書を付けて貸し出された。これは、利用者にとっては次の2点において煩雑である。1つは、一度の来館で借りることができないという点で、貸出しを希望して来館しながらも「もう一度来るのは無理」と言って帰ってしまった例がある。もう1つは代表者印が必要という点で、「手続きが面倒くさい」と言って尻込みされる例があった。

こうした煩雑な手続きの改善は以前からの課題であった。2012(平成24)4月には「福井県文書館における展示パネルの管理要領」を改正し、第6条に「この要領の規定は、複製シート等について準用する」という一文を加えて、複製シートの管理方法を明確にしたほか、第4条を改正して新たに「展示パネル等資料貸出し申込書」の様式を設け、従来よりも簡易な申込書にした¹⁸⁾。しかし、併設する福井県立図書館の団体貸出手続方法に準拠したため¹⁹⁾、代表者印と館長決裁は必要なままになっている。より簡易な手続きで、1回の来館でスムーズに貸し出せる制度の整備が今後の課題である。

4. 広報

(1) チラシ

2010年度（平成22）より、すごろくの利用を呼びかけるチラシを作成し、館内に配備する他、館主催の講座などで配布したり、刊行物を送付する際に同封したりしてきた（写真8）。保育園児や小学生が見学で来館した際には、引率の先生に簡単な説明を添えて渡している。

2014年度（平成26）に改訂した際に「絵図や地図を紹介するチラシも作ってはどうか。」と上司からアドバイスを受け、地域回想法での利用を想定した、写真と地図をメインにしたチラシを作成した（写真9）。今後、公民館や福祉関係を中心に広く配布していきたいと考えている。

これ以外にも、当館発行の広報紙「文書館だより」や「文書館ふくい」²⁰⁾でも利用を呼びかける記事を随時掲載している。



写真8 すごろくの利用をよびかけるチラシ



写真9 地図・写真の利用をよびかけるチラシ

(2) 月替展示

当館では2012年度（平成24）より、月替展示で「つかって複製シート」シリーズを実施している。12年度は複製シートの中心を占めるすごろくと地図のみを紹介した。13年度は地券や高札など、学校で教材として使える資料を中心に紹介し、14年度は写真パネルも含めた、学校・公民館・福祉施設などでのこれまでの活用例や、当館から提案する利用方法などを総括的に紹介した（写真10・11）²¹⁾。毎年、館内に掲示されたポスターなどを見て展示閲覧に来館して複製シートの存在を知り、貸出しを希望する例も見られる。

(3) ホームページ

2014年（平成26）2月にホームページが新しくなった際、新たに「学校で使える資料」²²⁾ というページを作ってもらい、その中で、複製シートや展示パネルの貸出しについての広報が可能になった（写真12）。ホームページに掲載されている「複製シート一覧」には、各資料の概要ページに



写真10 月替展示「つかって複製シート3」



写真11 月替展示「つかって複製シート3」

リンクを貼り、資料の詳細を確認することもできるようにした。一部ではあるが画像が閲覧できるものもあり²³⁾、イメージもつかみやすくなっている。

このほか、公民館や福祉施設の職員からは「利用した人に聞いた」という声も聞かれ、こうしたネットワークももっと活用しながら広報し、利用を増やしていく必要があると考えている。

複製シートの利用の幅は少しずつではあるが広がり始めている。ただ、残念ながら、複製シートの認知度はまだまだ低いと言わざるを得ない。今後は公民館などの生涯学習関連施設や、社会福祉関連施設への広報活動を強化しつつ、さらなる普及につとめたいと考えている。また、利用者の幅を広げ、活用方法の開拓を進めることと、具体的な活用例をつけてPRし、貸出しできるよう、事例集の作成も必要であろう。

当館が開館して12年が経ち、普及活動も多岐にわたる中で、当館の資料を身近に感じてもらい、手軽に使ってもらえる複製シートは、非常に有効な手段である。今後も取組みを続けていきたい。



写真12 当館 HP「学校でつかえる資料」

注

- 1) 当館の展示は、月替展示と企画展示に分けられる。月替展示は展示期間を1ヶ月から2ヶ月間とする当館収蔵の資料や事業の紹介のための展示である。企画展示は、展示期間を2ヶ月とし、あわせて大型パネルやパンフレットを作成する、月替展示よりもやや規模の大きい展示である。なお、当館は展示施設ではないため、閲覧室内に展示ケース2台を設置し、周囲にパネルを立てる形で展示を実施している。その関係もあって、展示の規模はそれほど大きいものではない。それ以外に、ミニ展示ケース1台を用いて、臨時的にミニ展示を開催することもある。各展示の詳細は当館HPで紹介している。「すぐろく展」の詳細は当館HP <http://www.archives.pref.fukui.jp/fukui/08/2009exhb/2009exhb00.html> 参照。展示パンフレットは当館HP <http://www.archives.pref.fukui.jp/fukui/08/2009exhb/2009exhbjpeg.html> に掲載。
- 2) 複製シート作成の仕様は以下の通り。
 - (1) 画像データおよび典拠情報データは文書館が提供する。
 - (2) 出力形式
 - ・解像度は、提供画像データのまま変更はしない。
 - ・出力サイズは、A1判とする。
 - ・フルカラー出力で中期間(約1年間)以上の耐光性のあるインクを使用し、劣化による色落ち、色褪せなどが起こらないようにする。
 - ・提供画像データの本紙端部分に写真合成による跡が残っている場合には、職員の指示にしたがい適切にトリミングすること。
 - ・出力レイアウト右下に、文書館職員の指示により典拠(資料名・年代・資料群名・レファレンスコード)情報を記入すること(原則的に右下余白に右よせ、テキストは文書館が提供)。
 - ・出力用紙は、ポリプロピレン、厚さ210±5μm、合成紙とする。
 - (3) マットラミネート加工

出力後、印刷面の保護、劣化防止のため、UV加工を施した片面マットラミネート加工を行うこと。ラミネートは透明塩ビマット80μm、アクリル系強粘着透明糊30μm/UV加工の仕様を利用すること。
- 3) 毎年春休みや夏休みに小学生を対象に行われる「文書館探検隊」では、館内見学の最後に昔遊び体験タイムを設

- けており、毎回好評である。正月や夏休み期間には、閲覧室内に昔遊び体験コーナーを設けている。2013年度（平成25）からは、県主催の生涯学習の祭典「マナビ・フェスティバル」に参加し、家族向けに昔遊び体験コーナーを設けている。ふだん文書館や併設する県立図書館を利用しない層も参加するため、普及の良い機会となっている。
- 4) 2013年度（平成25）企画展示「新発見！福井城下絵図のヒミツ－浅井家がのこしたもの－」や13年度11・12月月替展示「80年前のふくいのすがた－陸軍大演習の写真と地図から－」では、大型の絵図を複製シート化して展示した。シート化してパネルに貼ったり、閲覧室内の机上に置いたりして展示することで、来館者に間近に自由に見てもらうことができる。特に地図や絵図はじっくり眺めたいという要望も多く、シート化する意義は大きい。
 - 5) シート NO.SH00027は欠番。なお、この中には、企画展示で作成した大型タペストリーも含まれている。
 - 6) 当館の学校連携の取組みについては、坪川敏幸・島田芳秀「学校教育との連携について」（『福井県文書館研究紀要』6、2009年、福井県文書館）、島田芳秀・吉田将之「普及啓発活動の新しい取り組み－学校連携を中心に－」（『福井県文書館研究紀要』7、2010年、福井県文書館）、井上由紀恵・吉田将之「授業に使えるふくいの資料」（『福井県文書館研究紀要』8、2011年、福井県文書館）、島田芳秀・吉田将之「文書館と高校・大学連携－ふくいヒストリア・学生サポータープログラムの実践から－」（『福井県文書館研究紀要』9、2012年、福井県文書館）で報告されている。
 - 7) 公民館や児童館の事業でも同じような利用実績がある。
 - 8) 利用した学校の先生からの感想の一部を紹介すると、「生徒の「地券によって地価が違うのはなぜ？」という質問をきっかけに、地券に書かれた面積や地目の違いなどに触れながら内容を深めることができ、充実した授業になった。丈夫な素材で使いやすかった。」（地券を利用した特別支援学校教員）、「ペリー来航が一般市民にも広く知れ渡ったことを示す貴重な資料を目の当たりにできてうれしかった。児童は授業の後すぐにシートを囲み、「越前守」やたくさんさんの「松平」などに驚きの声をあげていた。児童の興味・関心を高めることができた。」（海陸御固泰平鑑）を利用した小学校教員）など、概ね好評である。
 - 9) 遠藤英俊監修『地域回想法ハンドブック－地域で実践する介護予防プログラム－』（2007年、河出書房新社）。
 - 10) 前掲9）書には、「博物館や歴史民俗資料館には、地域の歴史や民俗、いにしえを知るための資源、また地域に暮らす高齢者の生活歴などを理解する資料や情報が蓄積されています」とあり、「これらの施設は、地域をより理解し、またそこに暮らす高齢者の生活歴などを知るための情報源となり、さらに回想法を活用する際、懐かしさや記憶を引き出す有効な資源として利用できます」としている。
 - 11) 北名古屋市歴史民俗資料館では、昭和30年代の資料を中心に展示し、「おでかけ回想法」と称した高齢者の見学受け入れや、回想法キットの貸出しなどに取り組んでいる。北名古屋市歴史民俗資料館 HP <http://www.city.kitanagoya.lg.jp/rekimin/index.php>。なお、北名古屋市では合併前の旧師勝町時代の2002年（平成14）より、回想法を日本で初めて地域の中に取り入れ「地域回想法」として介護予防、認知症予防や地域づくりを目的に「思い出ふれあい事業」として実施している。北名古屋市歴史民俗資料館と連携しながら、回想法スクールの実施、回想法キットの貸出し、小冊子やビデオの作成など、その事業は多岐にわたる。北名古屋市 HP <http://www.city.kitanagoya.lg.jp/fukushi/3000067.php>。
 - 12) 前掲9）書では、江戸東京博物館（東京都）、亀岡市文化資料館（京都府）、東近江市能登川博物館（滋賀県）、飛騨の山樵館（岐阜県）、日本大正村（岐阜県）など、図書館として斐川町図書館（島根県、現いずも市立ひかわ図書館）などが紹介されている。信江啓子「民俗資料の活きる道－博福連携事業「いきいき講座」の実践」（『博物館研究』第48巻第4号、2013年、日本博物館協会）では、岡山県立博物館の取組みが報告され、その中には三田ふるさと学習館（兵庫県）や熊本市立熊本博物館（熊本県）も紹介されている。小谷超「博物館が行う「地域回想法」～博物館の新たな取り組み～」(2014年、富山県博物館協会 HP <http://museums.toyamaken.jp/documents/documents021/>)では、氷見市立博物館（富山県）の取組みが報告されている。県内では県立歴史博物館が、常設展「昭和のくらし」で昭和30年代から40年代の生活のようすを再現している他、昭和をテーマにした企画展示を開催している（瓜生由起「昭和の子どもたち～あのころの学校物語」を振りかえって－「思い出カード」の反響を中心に－」、『Museum Style』Vol.3、2005年、福井県立歴史博物館）。

当館でもこれまで展示の際に、来館者の思い出を書いてもらって掲示したり、思い出を語る会を開いたりした取り組みがある。特に2008年（平成20）5月替展示「だるま屋少女歌劇－プログラムとプロマイド－」での取り組みは『文書館だより』12(2008年、福井県文書館)で報告されている。

- 13) 県広報写真についての詳細は、拙稿「県広報写真の整理と利用」参照（『福井県文書館研究紀要』9、2012年、福井県文書館）。
- 14) 当館での写真を中心にした展示では、思い出を書いてもらい掲示する取り組みを実施している。職員に写真パネルの前で思い出話を語っていく来館者も多い（前掲13）論文参照）。山口市立秋穂図書館では、写真による地域回想法を実践している（原田洋子「図書館を拠点にしたまちづくり－山口市秋穂における古写真による地域回想法の実践に基づく「地域のこし・地域おこし」－」『図書館学』第100号、2012年、西日本図書館学会）。
- 15) 越前市の自治振興会とは、地域自治を推進するため、地区の市民等により組織された団体である。小学校を中心とした市内17地区を単位とし、地区内の意見や課題を幅広く収集し、地区民の総意を持って事業の検討や地域自治振興（まちづくり）計画の策定を行う他、地域自治振興計画に基づいて事業を実施する主体的な役割を担っている。越前市 HP <http://www.city.echizen.lg.jp/office/130/030/chiikijichil.html>。
- 16) 2012年度（平成24）には、県内の公益社団法人のテレビCMで、当館の県広報写真放映の申込みがあった。CMのキャッチコピーが「元気だそっさ！福井！」（「元気だそっさ」は福井弁で「元気出そうよ」の意味）で、1968年（昭和43）に開催された福井国体のテーマソングをBGMに、昭和の県内の懐かしい風景が流されるものである。回想法の手法を用いた制作なので、併せて紹介したい。
- 17) 展示パネルとは、当館で行われる展示のために作成したパネルのことで、2008年（平成20）4月より「福井県文書館における展示パネルの管理要領」を施行し、利用促進を図っている。施行当初の「福井県文書館における展示パネルの管理要領」第4条では、「貸出しについては、福井県文書館における文書等の貸出し要領（平成19年4月1日施行）第3条から第7条までを準用する。ただし、これらの条中文書等とあるのは展示パネルと読替える。」と定めている。そのため、原本資料の貸出しと同じ扱いがされ、複製シートについてもこの条項が準用された。
- 18) 改正された「福井県文書館における展示パネルの管理要領」第4条（貸出し）の条文は以下の通り。

第4条 文書館長は、他の公文書館または図書館、博物館、公民館、学校、官公署その他館長が適当と認める団体から展示パネルの貸出しの申出があったときは、期間を定めて貸出すことができる。

2 前項の規定により展示パネルの貸出しを受けようとする者は、展示パネル等資料貸出し申込書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。
- 19) 2012年（平成24）4月、当館は県立図書館と統合したため、この時の手続方法改正の検討にあたっては足並みをそろえた。
- 20) 「文書館だより」は、年1回発行で（2011年度（平成23）までは年2回）A4カラー刷り8ページ。館内・併設する県立図書館に配備する他、関係機関、県内中・高校、県内公民館、資料所蔵者などに配布。「文書館ふくい」は毎月1回発行でA4両面刷り（表のみカラー）。館内や県立図書館に配備する他、県内市町図書館や大学図書館、福井市内公民館に配布。県内小中高校・特別支援学校にはメール配布している。なお、配付の際、前述のすぐろくや地図・写真の利用チラシを随時添付している。既刊は当館HPに掲載。http://www.library-archives.pref.fukui.jp/?page_id=148。
- 21) 展示の詳細は当館HP参照。http://www.library-archives.pref.fukui.jp/?page_id=149。
- 22) 当館HP http://www.library-archives.pref.fukui.jp/?page_id=493。
- 23) 2014年（平成26）2月に検索システムが新しくなり、資料の詳細ページから資料画像を閲覧できるようになった。現在、寄贈資料を中心に、目録件数約26,000件、カラー画像約24万点の閲覧が可能である。（14年12月末現在）。